

あしがき

本工事誌は、兵庫県南部地震による公社埠頭の復旧設計及び復旧工事についての概要を主にとりまとめたものである。

震災直後の神戸港や公社バースの状況を振り返ってみると、岸壁が海側に弓を描いたように変形し沈み込んでおり、エプロン部は陥没し水路のような状態もあった。

この陥没部に、ストラドルキャリアやコンテナシャーシがもぐり込んだ状況となっており、岸壁際に積んであったコンテナが一部海に投げ出されるということもあった。また、コンテナクレーンも基礎スパンの拡大により、脚部を中心に走行装置等に損傷を受けており、1基について倒壊するという大きな被害を被った。

地震の発生が早朝ということもあり、公社バース内では人身事故につながらなかったことがせめてもの救いであった。

復旧設計にあたっての主題は、耐震性の強化を図った港湾施設を早期に構築することであり、復旧設計の技術的課題について運輸省港湾技術研究所、同第三港湾建設局震災復興建設部、同神戸調査設計事務所をはじめ、関係機関には多大なご指導、ご協力をいただいた。

また、工事の実施においては施工サイドからの各種提案もあり、不測の事態にも無事対処することができた。

港湾機能の回復を目指して2年余りの短期間で復旧工事を完了する、という当初目標を達成することができたのも、各方面からの絶大なるご支援とご協力によるものと改めて感謝いたしますとともに、本工事誌の作成にあたりご協力いただいた皆様方に厚く御礼申し上げます。

まもなく新しい世紀を迎える事となりますが、神戸港の真の復興を目指して今後とも努力をしていきたいと考えている。